

# マイスター・ハイスクールだより

## 令和4年度 第3回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

令和5年2月7日(火)、厚岸翔洋高校を会場に、令和4年度第3回運営委員会を開催しました。

委員会では、今年度のマイスター・ハイスクール事業の取組について、厚岸翔洋高校の生徒、学校長、CEO、産業実務家教員、伴走者から報告等があり、その後、各運営委員からの質疑や指導助言がありました。



### 事業報告等

#### ○ 生徒による報告

##### <水産資源の持続化に関する取組>

- ★ 資源管理型漁業の在り方などについて理解を深めるため、和田CEOによる「スマート水産入門」に関する講話を実施
- ★ データロガー・ブイを設置し、厚岸港内外の水温や塩分など、海況に関するモニタリングを実施

##### <漁家経営の持続化に関する取組>

- ★ 釧路水産試験場や厚岸漁協の方々による「厚岸のアサリ漁業の現状や機械化・スマート化を伴う最新技術」に関する講話を実施

##### <地域産業の持続化に関する取組>

- ★ 地場産の栄養的価値と高付加価値化について、釧路短期大学の先生方による講話を実施
  - ★ 3年生の「課題研究」において、未利用資源（アメマス）有効利用に関する研究を実施（下記※1）
  - ★ 次年度、厚岸町で開催する全国豊かな海づくり大会北海道大会公式弁当のメニューを考案・試作
- (※1 厚岸の未利用・低利用魚の研究発表)

- ★ 研究チームの海洋資源科3年生2名による研究成果の発表



スマートブイの設置作業



研究成果の発表の様子

#### ○ 学校長による報告

学校長から、定量的目標及び定性的目標に関するアンケート結果の報告とともに、次年度の取組の方向性が示されました。

〔<アンケート調査方法>  
 海洋資源科1年生16名、2年生15名、3年生16名を対象。〔4：大いにあてはまる、3：あてはまる、2：あまりあてはまらない、1：全くあてはまらない〕の4つの選択肢から回答。そのうち4及び3を肯定的評価として集計。〕

##### <定量的目標に関する評価結果>

	項目	目標	実施月	1年	2年	3年	全体
1	地域に魅力を感じ愛着を持っている	80%	6月	75%	60%	94%	77%
			1月	81%	60%	81%	74%
2	地域課題を発見し、解決に向け多面的に考え行動できる	80%	6月	25%	7%	56%	30%
			1月	31%	7%	50%	30%
3	将来、地域のために貢献したいと考え、行動できる	80%	6月	63%	27%	69%	53%
			1月	56%	20%	63%	47%
4	様々な産業人との交流を通し自身の進路を考えている	80%	6月	50%	67%	88%	68%
			1月	69%	60%	81%	70%
5	希望進路に関連した資格取得に取り組んでいる	80%	6月	56%	60%	56%	57%
			1月	31%	47%	94%	57%
6	ITやICTの役割を理解し活用できる	80%	6月	75%	60%	94%	77%
			1月	56%	7%	56%	40%
7	卒業後、漁業や調理など地域の主要産業に就職した（就職したい）	66%	6月	75%	80%	56%	70%
			1月	63%	67%	81%	70%

### <定性的目標に関する評価結果>

	項目	実施月	1年	2年	3年	全体
1	社会人・職業人としての基礎となる知識・技術	6月	50%	67%	56%	57%
		1月	50%	47%	75%	57%
2	コミュニケーション力	6月	63%	67%	81%	70%
		1月	69%	53%	75%	66%
3	協働する力	6月	88%	80%	88%	85%
		1月	88%	60%	81%	77%
4	自己管理力	6月	94%	80%	75%	83%
		1月	75%	73%	81%	77%
5	思いやり	6月	94%	93%	88%	91%
		1月	94%	87%	94%	91%
6	思考力	6月	81%	87%	94%	87%
		1月	81%	93%	81%	85%
7	道徳心	6月	94%	73%	75%	81%
		1月	100%	93%	81%	91%
8	自己肯定感	6月	81%	80%	94%	85%
		1月	63%	53%	88%	68%

### <評価結果の分析>

- ・微少な差は特段問題はないが、大幅に差が開いている項目は、今後注視してほしい。
- ・地域の主要産業（漁業・調理等）に就職した3年生が81%という結果は、非常に高く、次年度も期待したい。

### <次年度の方向性>

- ・漁業のスマート化に向けた研究・開発
- ・水産物高付加価値化に関わる知識・技術の習得と、開発レシピ・加工品の商品化



### ○ CEOによる報告・説明

- ・スマート水産に関する授業や実習等を実施したほか、先生方と一緒にシーフードショーに参加するなど、事業の土台となり次年度につながる取組を実施。
- ・次年度は、生徒が10年先の食産業や漁業、将来の生活や食卓の変化をイメージした上で、本事業に取り組むことができるように進めていきたい。



### ○ 産業実務家教員による報告

- ・生徒は非常に明るくて活気がある。
- ・研究発表は、各大会で良い評価をいただいた。
- ・次年度は、今年度の取組を発展し、さらに地域の課題解決に向けた取組を進めていきたい。

### ○ 伴走者による説明

- ・伴走者として学校と地域を繋いでいくような役割を行っていききたい。
- ・生徒の進路や就職に関するキャリアガイダンスなど、様々なサポートも行っていきたい。

## 運営委員からの指導助言・感想等

生徒の皆さんの発表にあった消費者目線は本当に大事なこと。ともすると作ることに一生懸命になって自己満足してしまうと実際には売れない商品になるので、様々な外部の方からの評価を生かしてほしい。

スマート水産業について、今年度は準備段階の取組が多かったが、来年度からは活用していくことになる。効果的な取組が明らかになった場合には、一緒に普及して管内全体に広がるようにしていきたい。

厚岸町は水産業が基盤となっていて、水産業が衰退すると町の活性化も難しい。本事業のように、産学協働の取組を進め、事業終了後も継続的に取り組んでいくと、次の課題も見えてくるようになると思う。

折角、商品開発をしたので、まずは町民の方、多くの方々に知っていただき、食べていただくことが重要。例えば、町のIP端末などの告知を利用して、コンキリエや漁協の直売店での販売も検討してほしい。

アメマスを使用した蒲鉾については、原料を確保することが難しいが、原料魚をそのまま冷凍するのではなく、冷凍すり身の技術を加えることで更に物性のある美味しい蒲鉾ができるのではないかなと思う。

地域に適した資源管理型漁業をより確立するため、スマート水産業に関わる機器の普及や、ネットワークの充実、データの共有などの取組を通して、新しいサービスの開発や研究を促してほしい。

これからも町の活性化に向けて、本事業を通じて地域に貢献し、次世代に対応できる人材を育成してほしい。町には、雇用対策連絡協議会なども設置しているので、是非、有効活用してほしい。

## 次年度に向けて

### ○ 学校長より

- ・スマート水産に係る機器の設置やデータの活用に関する効果的な方法のほか、商品販売などに関して、今後も関係各所から御助言や御協力をいただきたい。

### ○ 委員長（若狭町長）より

- ・今年の9月17日に全国豊かな海づくり大会が厚岸で開催される。厚岸翔洋高校の生徒の皆さんの出番もあるので、是非、御協力をお願いしたい。

